

1 主 題 親切の大切さ B一(7)思いやり, 感謝

2 ねらいと教材

- (1) ねらい 自分が相手のために行動することによる思いやりと、相手に対する自分の思いを言葉にして伝える思いやりがあるという心情を育てる。  
 (2) 教材名 心に通じた「どうぞ」のひとつ (東京書籍 「新しい道徳6」)

3 主題設定の理由

- (1) ねらいや指導内容について  
 内容項目B一(7)には、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」を主な内容としている。高学年の発達段階から、自分が相手のために行動することと、自分の思いを言葉にして伝えられるような態度を育てる。  
 (2) 児童生徒の実態と教師の願い  
 児童の実態について(\*人)

公平君が歩道橋を上り始めると、前の方に、おばあさんが重そうな荷物を抱えながら上っていくのが見えました。公平君は、そのおばあさんを見ながら歩道橋を上って行きました。	
《心情》	公平君は、おばあさんを見たとき、どんな気持ちだったでしょうか。
ア	どうしよう、こまったな。 *人
イ	重そうだから何とかしてあげようかな *人
ウ	早く行って、荷物を持ってあげたいな *人
エ	元気そうなおばあさんだから、大丈夫だろう。 *人
《判断》	公平君は、荷物を持ってあげることにしました。どんなことを考えたでしょうか。
ア	持たないと、だれかに何か言われそう。 *人
イ	こういうときは、持ってあげるのがよい。 *人
ウ	重い荷物を持ったおばあさんにあわなければよかった。 *人
エ	持ってあげると、おばあさんは助かるだろう。 *人

本学級の児童は、本年度からの二つの小学校が統合し、1学期はお互いの様子を伺っている児童が多かった。2学期になり、忘れ物をして困っている友達に物を貸してあげたり、配付物を配るのを手伝ったりすることができるようになってきた。

調査結果を心情面から見ると、「重そうだから何とかしてあげようかな」や「早く行って、荷物を持ってあげたいな」など思いやりの感情を相手に向けている児童が多い。また、判断面から見ても、おばあさんの立場に立って考え、相手を思いやっている児童が多いことが分かる。つまり、思っただけでなかなか行動に移したり、声をかけたりできない児童が多い。

そこで、自分が相手のために行動することと、自分の思いを言葉にして伝えられるような態度を養っていききたい。

(3) 教材について

本教材では、おじいさんに席を譲るきっかけがなかなかつかめず、列車を降りるふりをして席を立った「ぼく」は、列車を降りようとするおじいさんから「ありがとう」とお礼を言われるという内容である。「ぼく」の心情の変化を考えさせることを通して、自分が相手のために行動することと、自分の思いを言葉にして伝えることが大切であることをとらえさせたい。

そこで、導入の段階で、授業前後の自分の心情の変化が捉えられるように、心情メーターを用いて、自分がもつ親切に対する概念を確認する。

展開前段では、教材の場面を確認し、自らのこととして捉えることができるようする。特に、「声をかけられなかったこと」への後悔が大きいことに気付けるように、補助発問を交えながら出し合う中で、「ぼく」の多様な気持ちや、心情の変化を感じ取らせたい。また、展開後段では、「ありがとう。座らせてもらいましたよ」の場面で役割演技を行う。その際、近くの人と話し合ったり、ハンドサインで意見を交流したりすることで、多面的・多角的に「ぼく」の気持ちを捉えさせるようにする。

終末には、心情メーターを用いて、自分がもつ親切に対する概念の変容を確認する。心情メーターと本時の授業で考えたことを交えながら、道徳ノートに振り返りを書くことを通して、ねらいとする価値に迫ることができるようにする。

4 学習の指導過程

(1) 目 標

「ぼく」の変化する心情を考える活動を通して、自分が相手のために行動することと、自分の

思いを言葉にして伝えられるような態度を育てる。

(2) 人権教育の視点との関連について

「ぼく」の変化する心情を考える活動を通して、本校の人権教育の視点4「互いに認め合い、声をかけ合い、協力し合う人間関係をつくれる児童・生徒を育てる。」態度の育成を図る。

(3) 準備・教材

ワークシート、場面絵、ペープサート（ふき出し）

(4) 展 開

■本校の人権教育の視点 ◎本校授業改善の視点から

段階	学習活動・内容 (◇発問◆中心発問)	予想される児童生徒の反応	指導上の留意点 (◎は評価)
導入 5分	1 自分の生活を振り返る。 ◇親切とは、どういうこと か分かりますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・僕が友人の手助けをすること。</li> <li>・僕がいつも相手を思うこと。</li> <li>・僕が誰かのために行動すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生活を振り返ることで、学習の方向付けをする。</li> <li>・心情メーターを記入することで、自分がもつ親切に対する概念を確認する。</li> </ul>
	「親切な人」とはどんなことができる人だろう。		
展開 25分	3 教材の前半の範読を聞き、話し合う。 ◇「どうぞ」といえなかったのはどうしてだろう。  ◇他の人が座ってしまったとき、ぼくはどんな気持ちだっただろう。  ◆優しい気持ちでいっぱいになったのはどうしてだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくは声をかけるのが恥ずかしい。</li> <li>・おじいさんに断られたらどうしよう。</li> <li>・おじいさんはきっとどこかに座るだろう。</li> <li>・ぼくも座っていたい。</li> </ul> <p>○自分に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どうぞ」と言えばよかった。</li> <li>・失敗した。</li> </ul> <p>○周りの人に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よくみてよ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いは通じていたとぼくが気付いたから。</li> <li>・おじいさんがわざわざ「ありがとう」と伝えてくれたから。</li> <li>・おじいさんが気付いてくれたから。</li> <li>・行動したことで喜んでいた人がいたから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵を用いて場面を想起させ、児童が情景を捉えられるようにする。</li> <li>◎児童が発表する際は、その児童の方を向くように伝え、相手の考えを傾聴することを通して、多様な考えを理解できるようにする。</li> <li>・周囲の人と話し合う時間をとり、「ぼく」の気持ちを多面的・多角的に考えられるようにする。</li> <li>・役割演技により、「ぼく」の気持ちを想起できるようにする。</li> <li>・ハンドサインを用いて意思表示をするとともに、自分との考えの同意と差異から考えを深められるようにする。</li> <li>■友人の思いと自分の思いを比較しながら聞くよう伝え、様々な思いを温かく受け入れられるようにする。</li> </ul>
	4 教材の後半の範読を聞き、その結末を知る。		
終末 15分	5 本時の学習を振り返る。 ◇「親切な人」とはどんなことができる人ですか	<p>&lt;行動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている人を助ける人。</li> <li>・相手の立場に立って考えて行動する人。</li> </ul> <p>&lt;言葉で伝える&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感謝の言葉を言える人。</li> <li>・行動をするときに一言添える人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導で児童の考えを捉え、数名の児童に発表を促す。</li> </ul> <p>◎親切な人は、行動するだけでなく、自分の思いを伝えられる人であることに気付いている。 (ノート、発表)</p>
	6 自分の生活をもとに、学んだことや感じたことを道徳ノートに書く。		
	7 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学級児童の人権作文を読み、共感できるようにする。</li> </ul>

5 他教科との関連

学級活動や日常的に「友達のよいところ」を探す機会を設け、自分から行動でき、お互いが声をかけやすい学級集団となるよう継続指導する。